

皇 學 館

学園報 第58号 発行・編集／学校法人皇學館 企画部
TEL:0596-22-6496・8600

●大 学 大学院・専攻科・文学部・教育学部・現代日本社会学部
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL:0596-22-0201(代表) FAX:0596-27-1704

●高等学校・中学校 三重県伊勢市楠部町138
[高 校] 〒516-8577 TEL:0596-22-0205(代表)
[中 学] 〒516-8588 TEL:0596-23-1398(代表)

注目記事

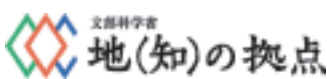
- 1面 COC事業・公開シンポジウムを初開催
 - 2面 心游舎ワークショップの開催
 - 3面 記念学術研究事業が完結
 - 7面 神社関係者懇談会・協議員会を鳥羽で開催
 - 8面 学生3名がフリーペーパー「ふあゆ」を発刊!
- 連載
- 7面 卒業生奮闘中!
佐野雄也氏(万協製菓株式会社勤務)
 - 8面 皇學館ミュージアム
東山天皇御即位式図



聴講者らはあらかじめ配布されたクリッカー(端末)で意見を表明したり、意見が会場のスライドで紹介されたりと参加型の仕掛けがあり、盛り上がった

地域の未来を考える第一歩

九月四日に開催されたシンポジウムはCOC事業(地知)の拠点整備事業の三部で構成。清水潔学



九月四日、本学において地(知)の拠点整備事業による初の公開シンポジウム「伊勢志摩で共に暮らし続けること」のミライを考えようシンポジウム」が行われた。参加した行政職員や地域住民、高校生、本学学生ら約百名が活発に意見を交わし、地域課題の解決策を探った。

COC事業・公開シンポジウムを初開催

多世代で地域課題の解決を

長は冒頭の挨拶で「COC事業を通して、地域の課題に対して大学としてできることを真剣に考えていく」と述べ、本シンポジウムについて「前例に拘わらず、自由な発想で地域の未来を考える第一歩だ」と語った。続いて、齋藤平教育開発センター長よりCOC事業の進捗説明が行われた。

地域の魅力、「人柄」が最多

続いて、二時間の「フューチャーセッション」を実施。フューチャーセッションとは、属性や世代の異なる多様な人が集まり、未来について対話する場のこと。宇治山田商業高校の生徒二名、三重大学と本学の学生計四名、伊勢志摩定住自立圏域の三市五町の若手職員各一名が登壇し、進行は板井正斉准教授と池山敦助教の二名が務めた。

セッションは一つの問いに対し、壇上の十四名が回答して意見を交換し合い、本学のコメントーターがまとめる形式で進行。まず「あなたのまちの魅力は」という問いに対し、登壇者らは「景観が良い」「食べ物がいっぱい」などと回答した。「人柄」と答えた宇治山田商業高校三年の東端咲恵さんは「伊勢はお伊勢参りの旅人を迎えてきたので、他人のために何かしようという精神が根付いている」と述べた。同じ問いに対する聴講者の集計でも「人柄」が最も多

島の魅力、課題を肌で感じる

答志島へ現地学修

伊勢志摩定住自立圏共生学・実施報告

教育開発センター准教授 板井正斉

伊勢志摩定住自立圏共生学では圏域市町の現状と課題を現場で学ぶために、現地学修を実施している。今回は「島のかあちゃんたちがもてなす『島の旅』で地域創生」と題して、鳥羽市答志島へ十名の学生とともに赴いた。

に乗ること約十五分。伊勢湾の恵まれた自然環境と人情味豊かな島文化の息づく答志島に渡った。島では離島の資源を有効に活用した海女小屋体験、路地裏散策など各種体験メニューのプロデュースを行っている「島の旅社」のツアーに参加。

と自然は密接に関係している」と語った。「十年後、今のまちに住んでいるか」の問いには、十四名中九名が「今のまちに住み続ける」と回答。「伝統の祭があるから地元に残りたい」という高校生「進学で都会に行き、故郷の魅力を再確認して戻ってきた」という若手職員など、多様な意見が交わされた。「十年後も住

多様な世代が対話できる場を

三部は、教室前のスペースに学生や地域団体による活動を紹介するパネルが設置され、参加者らが交流を楽しんだ。登壇した三重大学生物資源学部四年の清水梨央さんは「地域について改めて考えたことで、地域の見方が変わった」と語り、聴講した現代日本社会学科一年の戸田康平君は「さまざまな人の意見が聞け、考え方の違いがわかり面白かった」と話した。南伊勢町役場の羽根俊介さんは「形式的な会議ではなく、今回のように多様な世代が集まりフラंकに対話する場が

今後の必要になる」と地域住民が協働で地域課題の解決に取り組む重要性を語った。

なお、今年四月に開講した「伊勢志摩定住自立圏共生学」は秋学期からⅡ・Ⅳが始まり、学生が圏域の課題に取り組むCCL活動も活発化するなど、本事業は連携自治体の三市五町と三重銀総研の協力を得て着実に進捗している。今後も学生の地域学修意欲を向上させ、地域との連携をより一層深めながら「地知」の拠点大学として全学一丸となって事業を展開させていく。



黄色いTシャツ姿の「島の旅社」スタッフと記念撮影



島の風習・文化を色濃く残す路地を散策

ツアー後、学生からは「島民同士のつながり」「信頼関係」といった島の人間関係の豊かさに注目した意見のほか、「離島だからこそ発達してきた独自の文化」「今後、離島の文化がどのように保全されていくのか、それに対する島民の理解や活動に

興味がある」といった島文化そのもののユニークさ、継承に目が向いた意見も。さらに、「今まで漁業には全く興味がなかったが、おいしそうな魚がたくさんあり興味を持った」と、一次産業への関心を高めた学生もいた。定住自立については、「将来住みたい環境」「住んでしまえば楽しいと思った」といった積極的な意見もありながら、「旅行などに行った時『住みたい』と思うけれど、実際問題、交通や習慣の違いなども含め簡単に決められることではなく、よく考えるべきだと思った」「この島にいい印象を持っても、住みたいかと聞かれればそ

こまでは思わないことに気付いた」と、考えを一步深めた悩ましい意見も出された。「訪れること」の魅力と「暮らすこと」の現実の間にあるギャップに気付いたことで、島のかあちゃんたちの「想い」にもより近づけたのではないだろうか。帰りの定期船で手を振り合う島のかあちゃんと学生の関係に、今回の学びが詰まっていたように思う。



秋の初め、各地での災害が報じられた。伊勢市でも五十鈴川が警戒水位を超えたり、土砂災害防止のための避難指示が発令されたりした▼そのような危機が迫る状況でも人は「自分だけは助かるはず」と考えてしまったり。これを心理学では「正常性バイアス」と呼ぶ。実際の危機状況でもそうなのだから訓練と余計にそうなのだろう。七月に実施された大学の避難訓練では学生諸君の参加意識の面で課題を残した▼しかし、意識が低いことに対して憤るエネルギーがあるならば、それを啓発のエネルギーに転換することが求められる▼予想される南海トラフ巨大地震・大津波への物心両面の準備を学生諸君に対し、あらゆる機会を捉えて繰り返し、主体的な避難行動に結びつけなければならぬと思う▼地球物理学者の竹内均は「電球がいつ切れるのかを予知することは難しい。しかし、切れた時のために新しい電球を備えておくことはできる。同様に地震を予知することは難しい。しかし、その対応策を考えておくことはできる」と説いた。「備えあれば患いなし」とは『書経』にある言葉。肝に銘じたい。

心游舎ワークショップの開催

彬子女王殿下と学生が御花神饌づくり



学生の御花神饌づくりを指導する吉岡更紗先生と彬子女王殿下

彬子女王殿下が総裁を務められ、本学も会員となっている「心游舎」のワークショップが八月二十五日、本学・佐川記念神道博物館において開催され、学生約六十名が「御花神饌」づくりを体験した。

「子どもたちに本物の日本の文化に触れる機会を提供したい」と、そうした彬子女王殿下の思いに共鳴した有志一同により設立された「心游舎」。これまで子どもを対象にさまざまなワークショップが開催されてきたが、



「南天と鬼」奥が「桜と蝶」

で執り行われる勅祭・石清水祭放生会において供される神饌である。今回、学生たちが制作したのはその一部。午前の部では南天、午後は桜を担当した。

九時三十分が始まった午前の部では岡野友彦研究開発推進センター長に続いて彬子女王殿下がご挨拶。次に、植物染めによる古代色・技法の復元に取り組み国宝の修復等国内外で活躍されている染色史家・吉岡幸雄氏が「単なる懐古主義ではなく、実際、化学染料にはない重厚さ、美しさがある」と話していた。

「と、自然染料の魅力について語った。その後参加した学生は各グループに分かれ、御花神饌づくりに挑戦。吉岡氏の工房「染司よしおか」の吉岡更紗氏を中心とした指導のもと、繊細な作業に苦戦しつつ、真剣な表情で一つひとつ丁寧に作り込んでいた。

国史学科四年の西山祐実さんは「南天を知ってはいても、実物を注意して見たことがなかったのが難しかった。今回実際に制作したことで、和紙の柔らかい手触りや自然の優しい色合いが感じられてよかった」と語り、神道学科三年の新田恵三君は「神様にお供える際には、作りうる最高のものを捧げたいと願う。その気持ちが大事だと思う」と話していた。

夢の会地区別教育懇談会を実施 全国9会場で教職員と保護者が懇談



神戸会場での全体会で挨拶をする「夢の会」の松本真人会長

本年も大学の教職員が各地に伺い、教育方針や大学の現況を説明する「夢の会地区別教育懇談会」が、八月二十九日、九月六日に、全国九会場（浜松・名古屋・四日市・津・名張・伊勢・京都・神戸・福岡）で開催され、

前年より約五十名多い四一八名の保護者にご参加いただいた。地区別教育懇談会ではどの会場でも「全体会」「個別懇談会」「懇親会」が行われた。「全体会」は、三十分という限られた時間ではあるが、本学の教育の全体像を掴んでいたため、大学の現況や就職状況などの説明がなされた。「個別懇談会」は、各学科の教員が保護者にマンツーマンで履修状況や成績を説明するもので、将来の進路に対する希望やその実現の可能性が具体的に話し合われた。また、教員による個別懇談会と並行して、就職担当者による相談ブースや卒業生との懇談ブース（浜松・四日市のみ）も設けられ、より現実的な進路相談をすることもできた。



個別懇談会（津会場）の様子

「夢の会」は本学の保護者の名称で、学生を「花」に、保護者を花を支える「夢」に例えたことに由来する。学生の開花・結実を保護者・教職員双方で支えるため、今後も夢の会の行事にぜひご参加いただきたい。

就任のご挨拶

新常務理事 山口 建史

任期／平成二十七年七月一日～平成三十年八月二十六日



昭和四十七年に母館を卒業以来、四十三年間神社界に身を置きましたが、此度先輩方よりお話があり謹んでお受けさせていただきました。それは、長年神職としてご奉仕できた喜びに對するお礼と、感謝の気持ちに他なりません。

私の神職としての心の支えは、母館で学び得た敬神尊皇に尽きます。皇學館に根ざす学問は、我が国の歴史・文化・伝統にありますが、その原点は皇室へのこよなき戀慕、戀闕心に宿るものです。

たい、それが就任に当たったの抱負です。とは言っても、学校法人業務は未知の世界で、戸惑うことも多々あり、皆様のご教導を切に願う次第です。

【経歴】山口 建史（67歳）
昭和47年3月 皇學館大学文学部 国史学科卒業
昭和47年4月 熱田神宮 神社本庁
昭和47年8月 山口県神社庁
昭和49年6月 山口県神社庁
昭和52年5月 神社新報社
昭和54年12月 神社本庁
昭和57年4月 防府天満宮
昭和59年10月 山口県護国神社
平成元年7月 神社本庁
平成10年7月 靖國神社

来場者の満足度高し 第3回オープンキャンパス



実際の学びの雰囲気を感じられる「模擬講義」

八月九日、本学において第三回オープンキャンパス「学び」体験DAYが開催され、およそ千名名の来場者で賑わった。やりたいことを見つけたいと、体験型のプログラムが目白押しとなつた今回のオープンキャンパス。国史学科では「クイズ歴史発見（古代編）」、「コミュニケーション学科は「ゲームでコミュニケーション」リフレムの心理学」、教育学科は「教育ワークショップ」、現代日本社会学科は「NIPPONを動かそう会議」など、どの学科も趣向を凝らしたプログラムを実施し、いずれも好評を博した。また、午前中に行われたAO対策模擬講義も盛況で、関心の高さをうかがわれた。

参加いただいた保護者からは「学生さんが皆明るく挨拶などもしっかり

されていて好印象だった」「研究室で直接先生に質問できたので、研究室の雰囲気がよくわかった。子どもも大学で学ぶことに対する意欲が高まったようだ」といった意見、高校生からは「学食がすごくおいしかった」「キャンパス全体が緑に包まれていて、とても落ち着いた環境」「学生スタッフの皆さんが優しく気さくに声をかけてくれて、わからないことを教えてくれた」「模擬講義の質が他のどの大学よりも高く、アカデミックな内容だった」等の声が寄せられ、オープンキャンパス満足度調査では「予想以上に良かった」「良かった」と回答した参加者が九割を超える嬉しい結果となった。

十一月一日に行われる「大学祭」同時開催DAYは伝統の倉陵祭とあわせ、本学の学風と学びの環境が体感できるまたとない機会。納得のいく大学選びのためにも、足をお運びいただきたい。

障害者雇用優良事業所として表彰

九月八日に東京で行われた平成二十七年障害者雇用優良事業所等全国表彰式において、本法人が「独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長表彰」を受賞した。この賞は、障害者の雇用の促進と職業の安定を図るため、障害者を積極的に多数雇用した事業所、長年にわたる障害者の雇用の促進と職業の安定に貢献した団体又は個人等に贈られるもの。今年度は、全国より三十三の事業所が同賞に選ばれ、学校法人としては唯一の受賞となった。本法人では今後も障害者の採用及び職場定着を計るべく取り組んでいく。

平成二十四年に迎えた皇學館大學創立百三十周年・再興五十周年にあわせ、着々と進められてきた記念學術研究事業。今年八月をもつて全三十五冊が刊行され、今後の研究・活用の礎となる學術史料群として結実した。

「神宮の総合的研究」において刊行された『久邇親王行実』（別名『朝彦親王行実』）は、皇學館の創立者にあたる久邇宮朝彦親王についての伝記史料。原本は宮内大臣を編集委員長に明治三十三年に完成し、明治天皇に捧

呈された。幕末期には激動の政局に身を置き、維新後は神宮祭主として尽くされた朝彦親王のご生涯を知る好史料で、今回、『行実』とともに、その典拠史料を掲載した『行実出典』四冊もあわせて京都大学附属図書館本によ

り翻刻している。『荒木田經雅著作撰集』は神宮禰宜として三十二年間にわたり皇大神宮に奉仕し、『皇太神宮儀式帳』の注釈書『大神宮儀式解』(三十卷)を著すなど考証学者でもあった荒木田(中川)經雅(一七四二〜一八〇五)の著作撰集。多くの經雅自筆本の著述・記録類の中から、神事日記や個別の祭典記録、学問研究上の備忘や交友録、実地踏査の紀行文、神家の家訓書等に関する史料六件二十二点を翻刻した。經雅の敬虔な神宮奉仕と学問研究の生涯が知られるとともに、近世の神宮祭祀や宇治山田の実態、神

宮考証学を生み出した背景を見る上で貴重な史料集である。

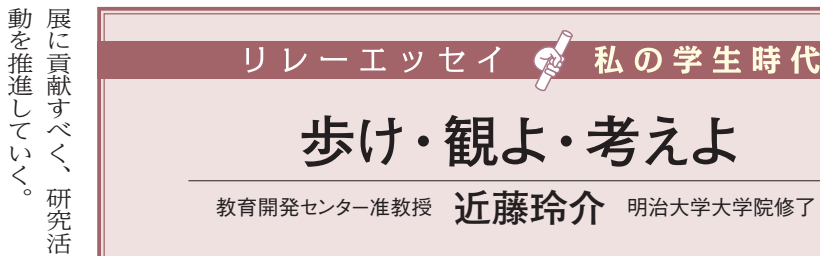
「福祉と地域連携に関する総合的研究」において刊行された『地域・福祉・文化』は、平成十年に名張市に開設された社会福祉学部と附置機関の地域福祉文化研究所(同十五年設置)とが進めてきた「社会福祉学部と地域社会との連携に関する総合的研究」「神道福祉の可能性に関する研究」を柱とした教育研究実践の成果をまとめた記念出版。『地域福祉』『地域文化研究・国際学術交流』『地域貢献活動』の三編四分冊・一六二八頁から

なり、DVD版を付す。地域福祉の最前線と国際比較研究、官学地域連携の実践モデル、新分野「神道福祉」への果敢な取組みが明らかにされており、その実践的研究スタイルは現代日本社会学部へ継承されている。

「儀式・踐祚・大嘗祭儀の研究」では「訓読註釈 儀式・踐祚・大嘗祭儀」を刊行した。大嘗祭は、即位された天皇が親祭される一代一度の国家祭祀。大嘗祭の具体的な全容をうかがうことができる最古で最詳の規定は、平安時代前期の『儀式』巻二・三・四の「踐祚・大嘗祭儀」にある。本書は、本学神道

研究所が長年にわたり取り組んできた『儀式 踐祚大嘗祭儀』の訓読注釈研究の集大成だ。

ほか、本学の建学の精神と歴史をひも解く『皇學館大學百三十年史』、『續日本紀史料』など、いずれも長年の調査研究をもとに編纂された価値の高い学術書ばかり。本学では今後も知の成果を広く社会に還元し、その発



地理学を専門的に学ぶ、と志を持ってわざわざ北海道から京都の某大学に進学したのであるが、そこは大学生らしい退廃的な生活を送ることが可能で有名な大学であったことを入学後に知った。天気が良ければ、講義時に友人たちと集合して、バイクにテントを積んで旅に出た。友人たちも私同様に地理学を愛していたので、ツーリング先のたき火の前でも、居酒屋で酔酩状態練習の間でも、メインピクニックは地理学的なものであった。要は、旅好き、地図好き、文系だけど生態学や地学が好き、をコジラせた若者たちが結集しており、自由な大学生生活でそれを実践していたというわけである。

大学三・四回生時は年間の大半をバイクで放浪していた。地理学はフィールドワークを基本とするので、私も友人もバイクで旅をしながら卒業研究が可能なテーマを選択し、「卒論のため」という錦の御旗を掲げて野宿生活を続けたものである。しかし、現地を観て、

感じて・調べなければわからないテーマを選択したことは、現在の地理学研究者としての私のスタンスを決定づけたことは言うまでもない。ゼミを休んでも、フィールドのためなら、と笑顔で送り出してくれた指導教官の存在もかけがえのないものであった。当時、一緒にバイクで放浪旅をしていた友人たちの多くは卒業後大学院へ進学し、それぞれがフィールドベースの地理学の視点を活かしたエキスパートとして、現在も社会で活躍している。

博士課程在籍中に明治大学でご指導いただいた小疇尚名誉教授からは「歩け・観よ・考えよ」というフィールドを対象とする研究者全般に通じる考えをご教示いただいた。この考えは、人文学的分野や非研究分野であっても、地域の実情を基盤に問題を解決する必要性が生じた際には、重要なスタンスではなからうか。今後の教育活動や地域との交流を通じて、このモットーを成果発信や教育に活かしたい所存である。

『神宮と日本文化』論文集	非売品	H 24. 4. 30 刊行
『大神宮故事類纂総目録』	非売品	H 24. 4. 30 刊行
『伊勢神宮研究文獻目録』	販売品	H 24. 4. 30 刊行
『荒木田経雅著作撰集』	非売品	H 27. 4. 30 刊行
『久邇親王行実』	非売品	H 25. 12. 30 刊行

2 福祉と地域連携に関する総合的研究

『地域・福祉・文化』	非売品	H 24. 4. 30 刊行
------------	-----	----------------

3 儀式踐祚大嘗祭儀の研究
『訓読註釈 儀式 踐祚大嘗祭儀』 販売品 H 24.6.30 刊行
但し、思文閣出版にて販売 定価 15750円

4 續日本紀史料の刊行
『續日本紀史料』 全20巻(22冊) 販売品 S 62.3.25 / H 26.3.20 刊行

5 皇學館大學百三十年史の刊行	販売品	H 24・4・30 刊行
総説篇		
資料篇(全3冊)	「資料篇一」	販売品 H 25・3・25 刊行
	「資料篇二」	販売品 H 26・3・31 刊行
	「資料篇三」	販売品 H 26・3・31 刊行
年表篇・写真篇	販売品	H 26・12・25 刊行
正誤並人名索引	販売品	H 27・8・15 刊行

販売書籍のご注文は左記へ
お電話またはファックスにてお申込みください。

皇學館大学出版部 TEL/FAX 0596-22-6320

高校吹奏楽部・第八回定期演奏会

九月二十日、二十一日の両日、皇學館高校吹奏楽部の第八回定期演奏会が伊勢市観光文化会館で開催された。

ひととき大きな拍手と歓声に包まれた。

二部は衣装や照明の雰囲気ガラリと変え、ポップス曲中心のステージ

員で「ありがとう」(作詞・作曲／大橋卓弥)を合唱し家族に感謝の気持ちをつづけたフィナーレでは涙を浮かべて聴き入る人の姿も見られた。

「親や祖父母世代を意識した選曲から幼い子どもが楽しめるパフォーマンスまで、どの年代も

クラシックを中心にした一部では先の三重県吹奏楽コンクールで演奏した曲を披露した。屋久島の森に着想を得た「森の贈り物」では自然の驚異をダイナミックなサウンドで表現。演奏後、会場は

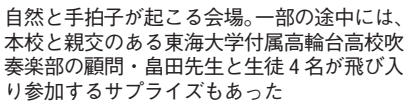
は部員が「ドラゴンボール」や「サザエさん」に登場するキャラクターに扮して踊ったり、「昭和歌謡大賞メドレー」では「勝手にしやがれ」などミリオンヒットを記録した名曲で盛り上げた。部員全

四日市から訪れたという家族連れは「小一、年少の子、おばあちゃんと来ました。アニメの曲などは子どもたちも口ずさんでいて、最後まで楽しんでました」と語り、伊勢市在住の六十代の男性は

楽しめるよう練られた企画、サービス精神が素晴らしかったです」と満足そうに話した。

なお、前述の県大会では三年連続金賞を、東海大会では銀賞を受賞した。顧問の前川幸生先生

は「今の良い雰囲気は残したまま、音楽性、技術をさらに磨き、演奏の質を高めていきたい。来年は今年の反省を活かしてステップアップをめざします」とさらなる飛躍へ向け意気込みを語った。



教員免許状更新講習

真剣な表情で講習を受ける参加者

八月十七日から二十二日にかけて、教員免許状更新講習を伊勢会場（本学）および四日市会場（じばさん三重）で開催した。五日間三十時間に及ぶ講習には二九六名が参加。三重のみならず、静岡、愛知、奈良、大阪、兵庫、山口など県外からの受講者もあった。本学での開催は今年で七回目。

五日間のうち、前半の二日間は必修領域として「教職についての省察」「子どもの変化」「教育政策の動向」「学校の内外における連携協力」を、後

半の三日間では「伝統と文化の理解」「道德教育・生徒指導」「教科内容の充実」をテーマに最新の教育事情を踏まえ、直面している教育課題や本学の特色、地域性に配慮した内容も取り入れた講習が行われた。講師陣は本学



真剣な表情で講習を受ける参加者

教員の他、著名な外部講師も担当した。講習後、受講者からは「皇學館らしさのある講習（特に伝統文化）で良かった」「新しい知識を学ぶことができ、今後の教育に活かせる」「久しぶりに学生になった気分でもとても勉強になった」「母校で受講することができとても良かった」「実技を取り入れた講習は今後も続けていきたい」「運営面で五日間ともわかりやすく説明いただき助かった」などの感想が寄せられた。

教職支援担当



世界遺産フエにて

ゼミ生との交流が一番の思い出

コミュニケーション学科 3 年 (外山ゼミ)
戸 田 紗 貴

私たち外山ゼミは、9月14日から3泊5日の日程でベトナム北部と中部へフィールドワークに出かけた。河野ゼミ、張ゼミ、川島ゼミもあわせ、4ゼミ合同の総勢40名で巡る旅である。

ハノイ空港に着いてまず感じたのは蒸し暑さだ。また、道の至る所に牛や鶏、アヒルがいる光景や、ナイトマーケットの熱気に異文化を感じた。2日目は世界遺産のハロン湾で3時間のクルーズを楽しんだ。海に浮かぶ巨岩は「海の桂林」と呼ばれており、石灰岩の奇岩が海上に並ぶ様は圧巻で、まるで映画の世界にいるようだった。ベトナムの自然を肌で感じたところで、3日目には国内便で中部のダナンに飛び、ミーソン遺跡などの世界遺産を訪れながらベトナムの歴史に触れた。また、ホイアンの旧市街地では福建会館や海のシルクロード博物館、来遠橋などを巡った。この橋は日本人が架けた橋で、小さいながらも歴史の重みを感じるとともに、これからもずっと日本とベトナムとの友好関係の象徴となると思った。4日目にはフエを訪れ、王宮やティエンム一寺、トゥドック帝廟、市場など、歴史と人々の生活に触れた。海鮮料理や郷土料理、宮廷料理を堪能し、食事においても異文化を体験した。

この旅行の一番の思い出は他のゼミ生と交流ができたことだ。普段は交流する機会がないため、この5日間を通してそれぞれの良いところや個性が発見できて親しくなれた。今後にも繋げていけるような貴重な経験で、充実したフィールドワークとなった。

日本の過去と未来を考察

現代日本社会学科 3 年 (岩崎ゼミ)
田 中 清 忠

「日本を動かそう」を合言葉とする現代日本社会学部。その伝統文化コース・岩崎ゼミの研修旅行のテーマは「江戸の伝統文化を学び、東京の首都機能を学ぶ」だ。

まずは靖國神社へ。本殿で正式参拝をさせていただき、鈴木貴彦禰宜の詳しい解説により遊就館を見学させていただいた。幕末～大東亜戦争までの国難に際して、国を守るために尊い命を捧げられた約246万6千柱もの神霊に感謝の意を伝えることができた。続いて、二重橋前より皇居を遙拝させていただいた(以上は橋本ゼミ+富永ゼミと合同)。

翌日からは、現代の国防の要である防衛省および市ヶ谷記念館(極東軍事裁判の地)を見学。続いて立法の要である国会を衆議院三ツ矢憲生代議士の平松大輔秘書のご案内で見学した。これからの日本を考え公務員をめざす者として大変刺激になった。

銀座の歌舞伎座では「伽羅^{めいぼく}先代萩^{せんだいはぎ}」(玉三郎・吉右衛門・染五郎ほか)を鑑賞。初めての体験だったが、その洗練された姿に心を動かされた。神宮外苑・聖徳記念絵画館では、明治という時代を築かれた明治天皇・昭憲皇太后お二方の御事績を描いた80枚の壁画を拝観し、その偉業の数々を学ばせていただいた。また、宿泊先の帝国ホテルでは日本の最高の「おもてなし」を目の当たりにし、感銘を受けた。

現代の日本の平和と繁栄がどのようにして出来たのか、そして、これからどのようにしていくべきなのかを深く考える機会となった。大変身の引き締まる思いであり、今後も頑張っていきたいと思う。



防衛省・市ヶ谷記念館にて



諏訪大社 上社本宮にて

研究分野の深化のきっかけに

大学院・国史学専攻
村 松 菖 蒲

今年度の大学院国史学専攻のフィールドワークは、2泊3日の日程で長野県へ向かった。今回の旅行では、参加者の専攻する時代が全時代にわたっていたため、それぞれの時代に関わる地を巡った。

私の専攻する近代史関係では、岡谷蚕糸博物館を訪れた。製糸業に関わる機械の歴史や、近代の社会経済史において製糸業が果たす役割の大きさを知ることができた。そのため、自分の研究の中でも生糸について掘り下げていく必要性を感じた。また、館長さんに案内をしていただいたことで、博物館学芸員をめざす身としても、案内の仕方についてなど得るものの多い博物館であった。

諏訪大社の上社本宮で正式参拝を行ったが、同日午後下社では例大祭が行われていた。大学の講義で神道や祭りについて学んでいるが、その祭りが行われている様子を実際に見ることで、自分の中に映像として残すことができたのは今回の旅の中でも大きな成果であったといえる。

真田宝物館や真田邸を訪れた際には、中世を中心とする真田一族についてや、中近世の文書の形式などを、その時代を専攻している院生に教えてもらいながら見学した。近代史を専攻していると触れることのない時代の史料はわからないことも多いが、その分、私に新しい興味関心を抱かせるには十分な印象であった。

他に印象に残ったのは、善光寺に建立されている日本忠霊殿である。日本で唯一の仏式の「靖國」ともいべき霊廟があるのを知ったのは驚きであった。また松本城の威容と街並みの風情は信州の文化と歴史の深さを感じさせるものだった。

11月1日～7日は



今年で57回目を迎える「教育・文化週間」。期間中は全国各地で体験活動や公開講座、美術館・博物館の無料開放など、さまざまなイベントが開催されます。ぜひ興味のあるイベントに足を運び、学ぶ愉しみ、芸術に触れる喜びを味わってみませんか？

詳しくは文部科学省のHPをご覧ください
http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/kyoiku-bunka/

倉陵祭開催
10/30金～11/1日

アーティストライブ

10月31日土

開場 ● 15:30
開演 ● 16:00～18:00
会場 ● 皇學館大学
記念講堂

入場無料・要整理券

※整理券の配布についてはHPをご覧ください。

家入レオ

女性シンガーソングライターとして2012年2月にメジャーデビューを果たし、第54回日本レコード大賞最優秀新人賞など数多くの新人賞を受賞。若く多感な世代に寄り添う歌詞と、自らの経験を歌にして伝えようとする純粋な姿勢が、多くの人に支持されています。

家入レオさんのライブに落語家・林家木久扇氏の講演など、楽しいイベントがいっぱい！ご家族や友人と一緒に、ぜひお越しください。

講演会

11月1日日

開場 ● 10:00
開演 ● 11:00～12:30
会場 ● 皇學館大学
記念講堂

入場無料・先着順

林家木久扇

「僕の人生、落語だよ！」

笑点でおなじみの林家木久扇氏が皇學館大学へやってきます。講演ではどのようなお話をしてくださるのか？ぜひ会場でお聞きください！



問合せ 学生支援部 学生担当 ☎0596-22-6317

仲間と切磋琢磨し成長

フィールドワーク報告記

秋学期のフィールドワークが国内組は9月11日～22日、海外組は9月6日～18日にかけて行われた。座学だけでは得られない視野の広がりや専門性の深まりを実感した学生たち。高い向上心を持つ仲間と共に過ごしたことも大きな刺激となったようだ。

平成27年度 フィールドワーク(研究旅行) 日程一覧				
	学 科	引率教員(敬称略)	日 程	目的地・方面
国内	神道	加茂正典	9/14(月)～17(木)	奈良・京都
		菅野覚明	9/12(土)～15(火)	函館・札幌
		松本 丘	9/13(日)～16(水)	伊豆・横浜・東京
	国文	大島信生	9/14(月)～17(木)	福岡・佐賀・長崎
		齋藤 平	9/14(月)～17(木)	岩手
		高倉一紀	9/14(月)～17(木)	近江・越前・丹後
		深津睦夫	9/14(月)～17(木)	岩手・宮城・福島・ 那須・東京
		中川照将	9/14(月)～16(水)	京都
		岡野裕行	9/13(日)～17(木)	東京方面
	国史	上野秀治	9/14(月)～17(木)	福島・栃木
		岡田 登	9/11(金)～15(火)	九州
		岡野友彦	9/19(土)～22(火)	山陰
		松浦光修	9/16(水)～18(金)	山口県
		多田實道	9/14(月)～18(金)	近畿・中国地方
		コミ	芳賀康朗	9/13(日)～16(水)
現日	富永 健	9/14(月)～17(木)	東京	
	橋本雅之	9/14(月)～17(木)	東京	
	岩崎正彌	9/14(月)～17(木)	東京	
海外	国文	上小倉一志、松下道信	9/ 6(日)～ 9(水)	中国(上海・杭州)
	国史	田浦雅徳、谷口裕信、 堀内淳一	9/ 7(月)～11(金)	台湾
	コミ	児玉玲子、山田やす子	9/ 7(月)～11(金)	台湾
		豊住 誠、川村一代、 クリストファー・メイヨー	9/ 8(火)～11(金)	シンガポール
	現日	筒井琢磨、藤井恭子	9/11(金)～14(月)	台湾
	神道・コミ	河野 訓、外山秀一、 張 磊、川島一晃	9/14(月)～18(金)	ベトナム中北部
	現日	笠原正嗣、関根 薫	9/14(月)～18(金)	グアム・準州

現地体験の重要性を認識

神道学科 3 年 (加茂ゼミ)
吉 藤 大 樹

私たちは加茂先生の引率のもと、2 名(大竹君・吉藤)で、9 月14日から17日にかけて奈良・京都を旅した。

初日は奈良の吉野を中心に吉野神宮・金峯山寺・吉水神社・吉野水分神社・如意輪寺・談山神社・石舞台古墳を巡った。吉野は奈良県の南部一帯を占める地域で、古くから役小角(役行者)が開いた修験道の中心地の一つとして発展してきた聖地だ。南北朝時代には後醍醐天皇が吉野朝廷(南朝)を成立させた地でもある。吉野を巡って感じたことは、明治時代に修験禁止令が出され、廃仏毀釈によって大打撃を受けた修験道の精神が形を変えつつもしっかり受け継がれているということだ。吉水神社では、後醍醐天皇の行宮の御座所を拝見し(写真参照)、さらに、同天皇の塔尾陵を拝して、「玉骨はたとひ南山の苔に埋もるとも、魂魄は常に北関の天を望まん」(太平記)の一文を偲んだ。

2 日目は、奈良市の元興寺・東大寺・手向山八幡宮・春日大社・興福寺・平城京資料館・平城京跡・平城京歴史館を巡った。正式参拝をさせて頂いた春日大社は、藤原氏(中臣氏)の氏神を祀るために創設された神社で、旧社格は官幣大社。朱色の社殿と多くの燈籠がとても印象的で、藤原氏と奈良の都の繁栄を物語っているようだった。

3 日目は、京都の伏見稲荷大社・東寺・泉涌寺・東本願寺・二条城・京都御所・北野天満宮・渡月橋・野宮神社を、4 日目は、同じく京都の下賀茂神社・詩仙堂・吉田神社・真如堂・平安神宮・八坂神社を巡った。二条城は徳川家康が京都御所の守護と将軍上洛の際の宿泊所として造営した城だが、実は平安京の神祇官が置かれていた場所だと知り、とても驚いた。

奈良・京都の古社寺・古蹟を訪れ、現地体験の重要性を認識した。得られた知見を、これからの学習に十分に活かしたい。



後醍醐天皇行在所の玉座(吉水神社)

『源氏物語』の世界観を感じる

国文学科 3 年 (中川ゼミ)
西 坂 未 優



嵐山・時雨殿にて

私たち中川ゼミは、2 泊 3 日のフィールドワークを京都で行った。旅の目的は「実際に京都を歩き、『源氏物語』の世界観を感じること」、「これから長い時間を共にするゼミ生同士が親交を深めること」だった。

初日、京都に着いた私たちは、祇園の通りを眺めながら、八坂神社をめざした。ここでは、正式参拝をした後、本殿を見学させていただいたり、祇園祭の中で八坂神社が主催する神事等について話を伺った。正式参拝では、普段味わうことのない緊張感と特別感に体がこわばった。その後、嵐山にある渡月橋を渡り、神秘的な竹林の中を散策した。京都駅に隣接したホテルはとても綺麗だった。夕食にはおいしい料理を堪能しながら、会話を楽しんだ。

2 日目は京都御所を訪れた。当時、貴族たちがどのくらいの距離を歩き出勤していたのかを知るため、御所から貴族が暮らしていたとされる所までを実際に歩いた。大変な道のりだったが、歩く距離が長い分、ゼミ生同士で話す時間も多く、仲良くなることができたと思う。午後には風俗博物館を訪れた。ここでは、『源氏物語』のワンシーンが人形で細かく再現されていて、現代では想像し難い貴族の暮らしなどを見ることができた。また、単衣や直衣など、平安時代の貴族が着ていた衣装を試着させていただいた。

3 日目は宇治にある源氏物語ミュージアムに行った。『源氏物語』第三部・宇治十帖についてたくさん展示されていて、授業で学んだことを復習できた。

今回のフィールドワークで学んだことを、これからの学習に活かしていきたいと思う。

想再去一次臺灣!～また行きたい台湾～

国史学科 3 年 (堀内ゼミ)
後 藤 貴 希

海外へ行くということは、言葉と文化の違う場所へ行くということ。

高雄へ向かう飛行機の中で、既に言葉の壁が高くそびえ立っていた。CAさんに何か伝えようにも、僕の拙い語学力では伝わらない。でも、身振り手振りを加えて、やっと CA さんが笑顔で応えてくれた。これがきっかけで、外国の人と会話することの楽しさを知り、旅行中、積極的に現地の人たちと話そうと思った。台湾に着いてまず立ち寄った台南では、戦前からある林百貨店を見学した。店内では「おでん」が売られていた。僕の拙い言語力を駆使しておでんを買い、店員さんとも一緒に写真を撮って、帰る頃にはすっかり仲良くなっていた。

烏山頭ダムでは、八田與一の記念館や復元された住居を見学した。日本統治時代の台湾において日本人が残した足跡をたどることで、近代における日本と台湾の関係、台湾の世界史的 위치について考えさせられた。台北の自由行動では故宮博物院を見学し、さらに「象棋」という中国の将棋を買った。しかし遊び方を知らないで、その夜に宿泊した北投温泉で、ホテルのフロントの人にルールを教えてもらい、一緒に遊んだ。現地の人とのコミュニケーションを通じて、中国の文化と歴史に触れることができた。

台湾を発つ時、現地のガイドさんから「台湾ト日本の懸け橋にナって下サイ」と言われた。いつかそうなれたらいいなァと思う。



中華民國總統府(旧台湾總督府)前にて

姉妹校提携を五年延長

第十四回 オーストラリア語学研修

七月二十日から八月二日の二週間、オーストラリア・メルボルンにおいて語学研修を行った。

姉妹校ローズヒル・セカンダリー・カレッジとの交流も今年で十四年目。実は今年で契約満了を迎えたのだが、両校の強い希望で新たに五年の契約延長の調印がなされた。これまで育んできたローズヒル校との友情がますます深ま

り、今後も良好な関係が築けるものと確信している。

今年度は本校から十一名の生徒が語学研修に参加した。生徒たちは例年同様、本校の代表としてさまざまな場面で積極的に活動し、ローズヒルの先生方やホストファミリーから非常に高い評価をいただいた。

毎年そうなのだが、参加した生徒たちはカルチャーショ

ックを経験する。オーストラリアの生活や授業スタイルに驚き、面食らう。同時に彼らは日本のそれと比較する。そして、日本の文化や日本人について思いをめぐらせる。日本という国、あるいは自分が日本人であることを一番強く意識するのは、海外にいるときなのかもしれない。

今回の参加者もオーストラリアで日本のことを思い、自

校友会新役員が抱負

七月三日に行われた校友会役員選挙で立候補者全員が信任された。以下に三名の抱負を紹介する。

裏方に徹する

総務委員長 小林 聖也

方で仕事を進めていけることが本場に嬉しいのです。生徒の

メンバーと力を合わせ全力で

総務副委員長 村木 彩里

総務副委員長になって初めて感じたことがたくさんありました。しなければいけない仕事が多く、責任が大きいこと、そして先生方との距離もとても近いということです。今後は今までの校友会の先輩

よりよい皇學館を創っていきたい

総務副委員長 島田 めぐ

私は生徒の皆さんと積極的に向き合い、意見を言いやすい環境を作っていくことで生徒の皆さんが学校生活やさまざまな行事に満足できる学校になるよう全力で頑張りたいと思います。皇高祭や体育祭などでは今まで築いてきたこ



左から、島田さん、小林君、村木さん

表情豊かなスピーチを披露

第10回 皇學館中学校・高等学校英語スピーチコンテスト



小学生の部入賞の皆さん



中学生の部入賞の皆さん

今年で十回目を迎えた皇學館中学校・高等学校英語スピーチコンテスト。小学生の部は五十二名、中学生の部は二十六名と、記念す

防災の日に合わせて、地震避難訓練

九月一日の防災の日に合わせて中学校・高校合同の地震避難訓練が実施された。今回の地震避難訓練は、震度五、六程度の東海地震が授業中に発生したとの想定で行われた。十時四十五分に地震発生の非常放送が入ると学級担任が第一次避難の指示をし、生徒は頭部を守るために机の下に身を隠し、

机の脚をしっかりと握った。同時に学級担任は教室の出入口を開け避難口を確保。この間に担任以外の教員は避難経路の安全確認を行



先生からの注意事項を聞く生徒たち

べきこの節目の回にも県内各地からたくさんの方々が参加をいただいた。

アイコンタクトやジェスチャーを効果的に交えながら表情豊かにスピーチを披露する姿が印象的であった。結果は、小学生の部では（ベ

グローバル化が進む中でますます求められる英語力や発信力。このスピーチコンテストをきっかけに、それぞれの自己表現力をぜひ磨いていってほしい。

英語科 小林誠治

た。避難誘導係教員の指示を受け、生徒は冷静に速やかに避難場所へ移動することができた。避難場所は高校生が旧武道館跡地駐車場、中学生は精華寮前駐車場となっているが、当日は雨天であったために高校生は第二体育館に、中学生は第三体育館に集合し点呼を受けた。

今回の地震避難訓練を機に、今後発生が想定されている東海地震への備えと防災意識の向上を図っていききたい。

絆を強めた体育大会

第三十六回 体育大会

雨天のため順延となっていた第三十六回体育大会が九月二十日開催され、生徒全員の頑張りで成功裏に終わった。以下に生徒の感想を掲げる。

クラス全員が朝練に参加

三年B組 中川 陽菜

体育大会を終えて私が一番感じたのは、「仲間の絆が深まった」ということです。三年B組の優勝は難しいと思っていました。クラスのみんなも思っていたはずですが、でも、このままじゃいけない、他のクラスに負けていられないとクラスで朝練を始めまし

た。おそらく、どのクラスよりも早い時期、時間から行っただと思います。最初、朝練に来るのは三、四人でしたが、最後にはクラス全員来るようになりました。バトンパスなど満足いくまで練習することができました。この朝練のおかげで話す機会が増え、結束も強く

なり、徐々にみんなが頑張り優勝したいと思うようになってきたと思います。そして本番には練習通りに力を発揮し、最終的に優勝することができました。この優勝はみんなが頑張ったからこそ実現したものです。そして笑顔になったのは、みんなとの絆が深まったからだと思っています。



優勝した3-Bと準優勝した3-A

カナダ・バンクーバー 海外短期語学研修 実施のお知らせ

皇學館中学校では英語特化プログラムの一環として、希望者を対象に来年3月20日(日)から11日間の日程でカナダ・バ

ンクーバーへの語学研修を実施する。現地では同年代のカナダ人学生がバディとして帯同し、午前中は英語レッスン、午後は様々なアクティビティーや体験学習を予定している。英語の実践力を向上させるとともに、ホームステイなどの生活体験を通して現地の文化や慣習を肌で感じ、国際的な視野を広げてもらいたい。

平成28年度 生徒募集要項

皇學館高等学校

募集人数	340名（6年制内部進学者を含む）
入学資格	中学卒業者および平成28年3月卒業見込みの者
出願期間	平成28年1月8日(金)～1月15日(金) 午前9時～午後3時（土日および祝日は除く）
出願手続	①入学願書（本校所定の用紙） ②調査書（本校所定の用紙） ③受験料 12,000円（本校所定の用紙（郵便振替）にて、必ずゆうちょ銀行窓口で、お納めください）
入学試験	日 時 平成28年1月29日(金) 午前9時～ ※追試験 2月8日(月)
	教 科 国語、数学、英語、理科、社会
	方 式 マークシート方式
	試 験 〈本会場〉皇學館高等学校 会 場 〈津会場〉大原簿記医療観光専門学校（津駅西口より徒歩1分）
合格発表	平成28年2月5日(金)に合格通知を各中学校および本人宛に発送します （電話によるお問い合わせには、お答えできません） ※得点開示…平成28年2月15日(月)～20日(土)（詳細は合格発表後にHPにてご案内します）
入学手続	平成28年2月18日(木) 午後3時までに、入学金45,000円を納入してください （本校所定の用紙にて、必ず銀行窓口でお納めください）
学 費	入学時の経費 ●教育充実費（入学時）250,000円
	入学後の経費（月額） ●授業料 23,000円 ※各家庭によって補助金の額に差があります ●教育充実費 8,500円 ●修学旅行積立 4,500円 ●その他 約4,400円

入試制度について

- ①特別進学コース・進学コース、それぞれのコースに推薦制度（専願）があります。
②所属中学校長の推薦書により、学業・人物優秀と認められる生徒に対しては、学力特別奨学生、また顕著な競技実績をもつと同時に、本校の授業内容を習得できる学力を有し、人物優秀な生徒に対しては、スポーツ・芸術推薦およびスポーツ・芸術特別奨学生の制度があります。

第3回 オープンスクール（学校見学会）

日時●11月22日(日)
午前の部 10:00～12:30 学校説明、吹奏楽部による歓迎ミニコンサート、校舎見学 など
午後の部 13:30～15:00 クラブの見学と説明 など ※午後の部は自由参加
★当日は軽食を準備します。 ★スリッパは各自でご持参ください。
上記日程以外の見学も可能です。お気軽にお問い合わせください。入試広報部 ☎0596-22-0205

6年一貫教育 皇學館中学校

	A日程		B日程
	一 般	専 願	
募集人数	A日程（一般・専願）・B日程合わせて 70名		
入学資格	平成28年 3 月小学校卒業見込みの児童（男女共）		
出願手続	● 入学志願票（本校所定の用紙） ● 受験料 12,000円（ゆうちょ銀行かコンビニエンスストアでお納めください）		
出願期間	平成27年 12月14日(月)～1月6日(水) 午前 9 時～午後 3 時（土曜日は正午まで） ※12月20日(日)・23日(祝)・26日(土)～ 1 月 5 日(火)を除く	平成28年 1月25日(月)～2月3日(水) 午前 9 時～午後 3 時 （土曜日は正午まで） ※ 1 月 31 日(日)を除く	
出願方法	【持参する場合】 出願書類を取りそろえ、所定の封筒に入れて学校事務室へ持参 【郵送する場合】 出願書類と受験票返信用封筒（住所氏名の記入、返信切手）		
試験日時	平成28年 1 月 9 日(土) 午前 9 時～	平成28年 2 月 6 日(土) 午前 9 時～	
試験教科	国語、算数、理科、社会	国語、算数、面接	国語、算数
合否発表	平成28年 1 月12日(火)	平成28年 2 月 9 日(火)	
	各家庭に郵送（電話によるお問い合わせにはお答えできません）		
入学手続	入学金 45,000円 ＋ 教育充実費 200,000円 ＝ 合計 245,000円 （所定の用紙にて銀行窓口でお納めください）		
学 費 （月額）	● 授業料 21,500円 ● 教育充実費 10,000円 ● その他 4,300円（保護者会費、後援会費、校友会費、図書費）		

特別奨学生制度

- 人物優秀で、次のいずれかの基準を満たす者から選考し、入学金および授業料の納入を免除します。
①小学校長または学習塾長から学業成績が特に優秀であると推薦され、入学試験の成績が優秀な者（専願に限りです）
②入学試験の成績が特に優秀な者

皇 中 祭

日程●10月24日(土)・25日(日)
場所●大学記念講堂、中学校校舎
内容●合唱コンクール、クラス展示、Ms.OOJAコンサート、tupera tupera記念講演 など
お知らせ

第3回 オープンスクール2015 ～皇學館で学ぼう～
日時●11月15日(日) 9:30～
内容●学校説明、入試案内、体験授業、 入試対策授業 など
※小学校3～6年生対象とします。

皇學館中学校

一年・西山朱音さんが優秀賞

少年の主張 三重県大会（中学生のメッセージ二〇一五）

「第三十七回少年の主張三重県大会」が八月二十三日、御浜町中央公民館で開催され、七八五名の応募者から選ばれた十四名（最優秀賞一名・優秀賞三名・優良賞十名）が発表を行った。その一人、見事優秀賞を受賞した皇學館中学一年の西山朱音さんは「全力のチカラ」と題したスピーチを披露。以下に西山さんの喜びの声を紹介する。

これから全力ガールで

一年A組 西山朱音



「やれる事は全力でな」

母がよく言うこの言葉に秘められた思い、そしてこの言葉に対する私の自身の思いを込め、「全力のチカラ」と題して発表

しました。スピーチの内容は、全力で取り組むことのすばらしさを訴えたものです。十六歳という若さで病気のために亡くなった母の姉は、生前、勉強に對してとても努力し、熱意を注いでいました。その様子を見ていた母から「健康で何でもやれる

のだから、やれることは何でも全力でやらないとお姉ちゃんに悪いよ」と教えられ、私自身も全力で取り組むことのすばらしさを身を持って知った経験をもとに訴えました。自分の思いを伝えるためには、ただ原稿用紙に書いてある文字を読み上げるのではなく、会場で聴いてくださる人々の顔をしっかりと見て伝えることだと思いました。当

日、私はできる限り聴衆の方へ視線を向け、時には身振りを交えたり、抑揚をつけたりして、少しでも多くの人に自分自身の思いを全力で伝えられるよう努めました。今回、全力を尽くした結果、なんとも言えない達成感を味わいました。そしてたくさんの人々に自分の思いを聴いていただくことがとても気持ちいいと感じ、新たな発見もありました。やっぱり全力っていいものです。改めて母のお姉ちゃんと母に感謝です。そしてこれから私は「全力ガール」で頑張り続けます。

神社関係者懇談会・協議員会を鳥羽で開催

神社関係者懇談会・協議員会が九月十七日、鳥羽国際ホテルにて合同開催され、神社界並びに本学関係者一五五名が一堂に会した。

開宴に先立ち佐古一洌理事長より、神社関係者の方々には平素より格別のご支援を賜っていること、また、昨年立ち上げ



た教学振興会への多大なご協力に対し、深い感謝の意が表された。続いて、清水潔学長が学園の現況を報告。地域連携への取り組みや奉職・就職支援、研究・教育設備の整備など、ソフト・ハード両面で着実に成果を上げている状況について説明した。その後、ご来賓を代表して北白川道久神社本庁統理がご挨拶され、続いて鷹司尚武神宮大宮司の乾杯のご発声により歓談・会食に移った。会場のあちこちで談笑と食事を楽しむ声が聞こえる中、名残惜しくも閉会の時間に。最後は寺井種伯神社本庁常務理事の万歳三唱にてお開きとなった。

卒業生奮闘中！

佐野 雄也さん 万協製薬株式会社 製造部製造課 課長
国文学科 第41期(平成18年3月)卒



三重県多気郡多気町五桂にある万協製薬株式会社という製薬会社に勤めています。今年で十年目となり、現在の仕事内容は主に製造全般の管理及び統括、部下の育成、社外対応です。万協製薬では、外用薬を主に製造しています。外用薬とは、例えば虫に刺されたときに肌に直接塗る薬であったり、筋肉痛の時に痛みをやわらげる薬であったり、冬場のかかさか肌に潤いを与えるクリームなどになります。薬以外にも美容効果のある化粧品を製造したり、体内環境を改善する健康食品も製造したりしています。医薬品は人々に安心とやすらぎを与え、笑顔と幸せを生み出す一方、人の健康に直接影響を与え、大きく言えば人の人生を左右するもの。薬を作る社会的責任と使命は計りしれません。そのため医薬品製造では薬事法という法律を遵守し、数ある製造業の中でもより厳しい管理と決められた手順に従い作業することが求められます。

大学時代は文系の国文学科でした。今の職につながるようなことは一見ないように思えます。しかし、国文学を学んだことで、物事をより深く考えさまざまな角度から見ることが、人に伝わる文章の作成方法や自分にとって興味が無い、わからないことでも最後までやり切る気持ちや備わったと感じています。大学時代に学んだことは、プラスになることはあつたとしてもマイナスになったことは何一つありません。自分の可能性を信じ、どんなことでもあきらめずに突き進む気持ち、苦勞をいとわず努力し続ける気持ちさえあれば、どんな職種であつたとしてもやり遂げることはできます。周りへの感謝・思いやりを忘れないこと、おごり高ぶらず謙虚でいること、出来ないいいわけをするのではなく出来るように前を向き努力すること、この三つを信条として、私は今後も頑張っていきたいと思っています。

【訂正とお詫び】前号（第57号・3面）に掲載の記事において左記の誤りがありました。訂正し、お詫びいたします。

誤 榎本樹郎 正 樽本樹郎